

IFAF Junior World Championships 2009

報告書



社团法人 日本アメリカンフットボール協会



■ 第1回 IFAF ジュニア世界選手権大会 2009 大会概要

大会名称：（日本語表記）IAF ジュニア世界選手権大会 2009

（英語表記）IAF Junior World Championships 2009

主 催：国際アメリカンフットボール連盟（IAF）

日 程：2009年6月27日（土）～7月5日（日）（米国現地時間）

会 場：ファウセット・スタジアム（米国オハイオ州キャントン）

出 場 国：日本、アメリカ合衆国、カナダ、メキシコ、ドイツ、スウェーデン、フランス、ニュージーランド

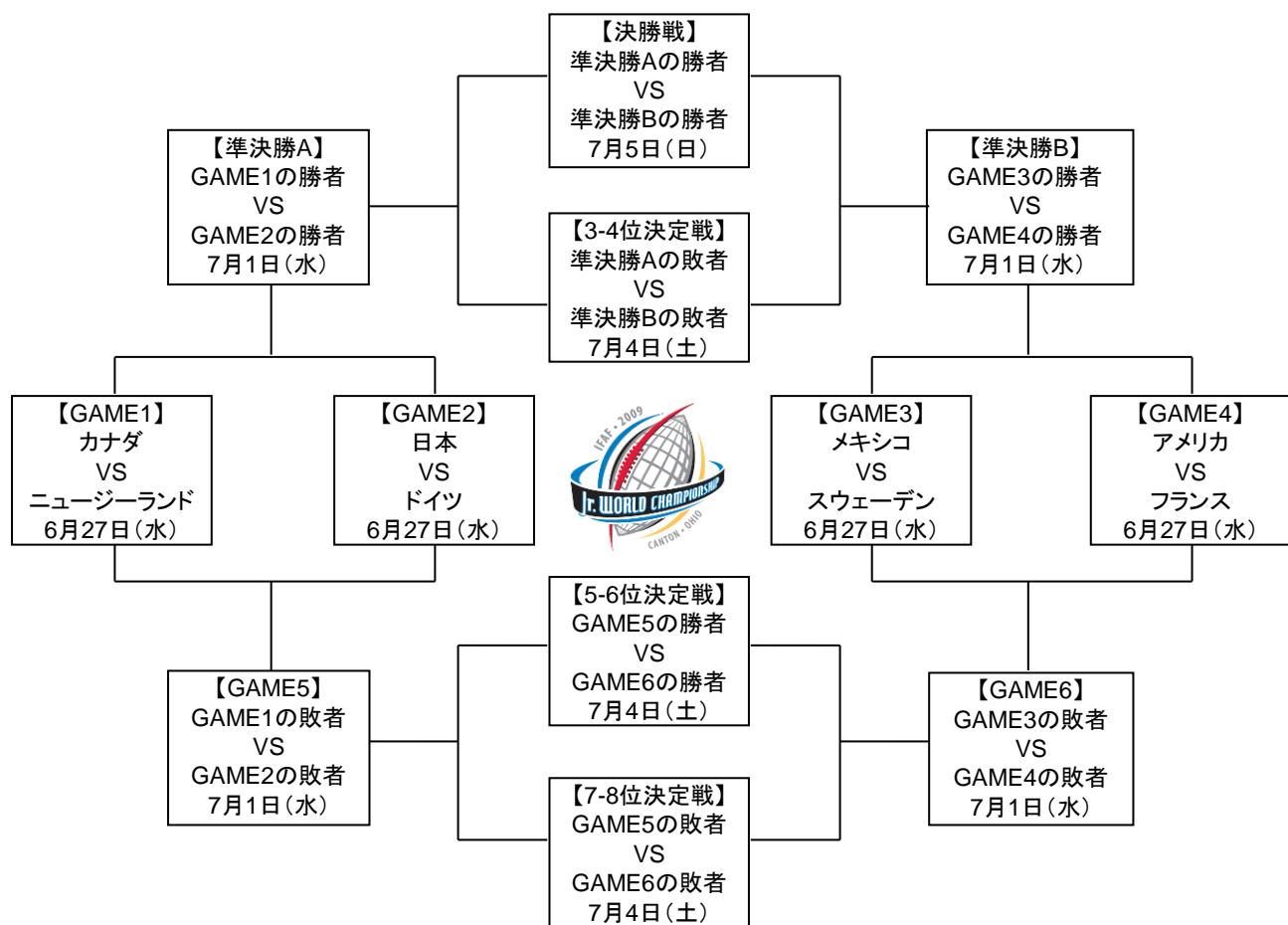
選手資格：2009年12月31日現在で満19歳以下であること

チーム編成：各国45名の選手でチームを編成

大会形式：トーナメント形式

※第1回戦で敗れた4チームは、敗戦国同士でトーナメントを行い、5位～8位の順位を決定する

大会日程・組み合わせ



■ U-19 日本代表 チーム概要

主 催：社団法人 日本アメリカンフットボール協会
主 管：日本学生アメリカンフットボール協会
協 力：日本高等学校アメリカンフットボール連盟
後 援：文部科学省

遠征期間：出発：6月24日（水）～帰国：7月7日（火）

テレビ放映：スカイA ※録画放送

関連ウェブサイト：JWC Official Website（英語）<http://www.usafootball.com/jwc/>
U-19 日本代表オフィシャルサイト <http://americanfootball.jp/u19/>

■ コーチングスタッフ・チームスタッフ

役職	氏名	所属
監督	山㟢 隆夫	大阪産業大学附属高校
ヘッドコーチ／DLコーチ	古橋 由一郎	立命館大学
オフェンス・コーディネーター	須永 恭通	日本大学
OLコーチ	米倉 輝	立命館大学
QB／WRコーチ	板井 正人	関西大学
RBコーチ	岸野 公彦	立命館大学
ディフェンス・コーディネーター／DBコーチ	武田 真一	大阪産業大学附属高校
LBコーチ	有澤 玄	鹿島ディアーズ
DLコーチ	木戸 宗子朗	名城大学
DBアシスタントコーチ	力野 邦人	東京農工大学
ストレングスコーチ	西村 忍	東洋大学
チームドクター	藤谷 博人	聖マリアンナ医科大学
ヘッドトレーナー	吉田 早織	東海大学
学生ヘッドトレーナー	美尾野 麻衣	日本体育大学
学生トレーナー	堀川 真理恵	慶應義塾大学
学生トレーナー	木名瀬 勝	東洋大学
学生トレーナー	真柄 恵実	関西学院大学
GM	山田 晋三	日本アメリカンフットボール協会
事務局長	清水 裕司	日本学生協会
学生マネージャー	松下 瞳	日本大学
学生マネージャー	齋藤 匠	関西学院大学
学生マネージャー	石森 純子	東海大学
広報担当	藤原 文典	NFL JAPAN
広報担当	高橋 洋人	NFL JAPAN
学生広報	市村 雅	上智大学

■ U-19 日本代表 ロースター選手（全 45 名）

No.	Pos	選手名	所属校	H	W	生年月日	出身校
4	OB	畠 卓志郎	関西学院大学 1 年	170	70	1990/06/2	関西学院高等部
10	QB	荒木 裕一朗	立命館大学 1 年	185	90	1990/06/0	大阪産業大学付属高校
19	QB	安藤 和馬	日本大学 1 年	174	74	1990/12/0	日本大学鶴ヶ丘高校
1	RB	井上 周	大阪産業大学付属高校 3 年	171	65	1991/11/0	-
5	RB	北川 瞬	立命館大学 2 年	165	74	1990/01/3	立命館宇治高校
9	RB	松森 亮太	箕面自由学園高校 3 年	171	68	1991/09/2	-
3	WR	重松 直樹	立教大学 2 年	180	76	1990/01/0	立教新座高校
7	WR	堀 勝斗	龍谷大学 1 年	168	63	1990/06/1	箕面自由学園高校
15	WR	遠藤 昇馬	日本大学 1 年	180	80	1990/08/0	大阪産業大学付属高校
21	WR	宜本 潤平	立命館大学 1 年	168	66	1990/12/1	大阪産業大学付属高校
23	WR	大澤 健太	日本大学 1 年	168	59	1991/03/0	駒場学園高校
24	WR	和田 俊亮	関西学院大学 2 年	173	71	1990/02/0	関西学院高等部
83	WR	小山 泰史	関西学院大学 1 年	181	78	1990/12/0	箕面自由学園高校
89	WR	林 雄太	日本大学 1 年	186	77	1990/12/3	駒場学園高校
87	TE	平山 諒一	関西大学 2 年	180	90	1990/01/1	報徳学園高校
55	OL	杉山 泰弘	名城大学 2 年	183	100	1990/03/0	岐阜工業高校
57	OL	山口 誠一	日本大学 1 年	170	132	1991/03/0	県立北大津高校
65	OL	海津 裕太	法政大学 2 年	186	105	1990/02/2	横須賀学院高校
66	OL	田畠 豪大	近畿大学 1 年	176	104	1991/02/1	大阪産業大学付属高校
67	OL	和田 将司	関西学院大学 1 年	186	111	1990/07/0	府立箕面高校
73	OL	坂口 裕	横須賀学院高校 3 年	189	110	1991/08/0	-
75	OL	北野 太一	立命館大学 2 年	178	118	1990/02/1	追手門学院高校
77	OL	伊藤 寛	立命館大学 2 年	185	126	1990/03/2	大成高校
56	DL	高橋 伶太	立命館大学 1 年	185	92	1990/10/2	大阪産業大学付属高校
59	DL	藤井 快昌	立命館大学 1 年	169	103	1990/01/0	La Costa Canyon
74	DL	清家 拓也	関西大学 1 年	175	107	1990/03/2	大阪産業大学付属高校
78	DL	藤井 功輔	立命館大学 2 年	184	102	1990/03/0	紫野高校
92	DL	長尾 篤	早稲田大学 1 年	181	93	1990/11/1	早稲田学院高校
93	DL	神山 恭祐	大阪産業大学付属高校 3 年	171	100	1991/09/2	-
98	DL	野村 地裕	日本大学 1 年	178	128	1990/11/2	三島高校
99	DL	武知 現大	大阪産業大学付属高校 3 年	176	100	1991/04/0	-
34	LB	浮山 航	中央大学 2 年	168	78	1990/02/2	佼成学園高校
39	LB	松岡 謙	関西大学 1 年	175	75	1990/07/2	大阪産業大学付属高校
43	LB	猪野 祥太	立命館大学 2 年	182	91	1990/02/1	長浜高校
44	LB	天谷 謙介	日本大学 1 年	177	80	1990/05/2	日本大学鶴ヶ丘高校
45	LB	辻本 洋平	関西学院大学 2 年	174	81	1990/02/1	関西学院高等部
49	LB	鵜沼 康平	法政大学 2 年	178	86	1990/03/1	法政大学第二高校
8	DB	齋藤 巨人	日本体育大学 2 年	177	75	1990/02/0	県立春日部東高校
12	DB	松崎 傑	慶應義塾大学 1 年	172	68	1990/07/1	慶應義塾高校
16	DB	砂川 敬三郎	関西大学 1 年	170	75	1991/01/3	大阪産業大学付属高校
18	DB	丸山 雄大	日本大学 2 年	181	74	1990/01/0	埼玉栄高校
27	DB	栗田 恭志	日本大学 1 年	173	74	1990/04/0	法政大学第二高校
31	DB	拓殖 元希	立命館大学 2 年	178	78	1990/02/2	関西大倉高校
37	DB	中村 正芳	関西大学 1 年	178	70	1991/02/1	大阪産業大学付属高校
40	DB	香山 裕俊	関西学院大学 2 年	183	79	1990/03/2	崇徳高校

■トーナメント1回戦 vs ドイツ代表 試合結果

現地時間 6月27日(土) 13時00分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 ドイツ代表	ヨーロッパ大陸連盟	7	0	0	0		7
U-19 日本代表	アジア大陸連盟	0	0	3	7		10

@ ファウセット・スタジアム (米国オハイオ州キャントン)

観衆： 1,500名

得点経過							
1Q							
ドイツ	TD	10:01	QB ジェンス・クリエテ→ラーズ・サムジェスク	40 ヤード TD パス			
2Q							
3Q							
日本	FG	02:11	K 遠藤 昇馬	32 ヤード FG			
4Q							
日本	TD	08:40	QB 安藤 和馬	8 ヤード TD ラン (キック成功)			

U-19 ドイツ代表	チーム成績	U-19 日本代表
178	オフェンス総獲得ヤード数	183
54	パス総獲得ヤード数	162
124	ラン総獲得ヤード数	21
20:58	ボール支配時間	27:02

U-19 日本代表 主な個人成績					
選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターベント	被サック
QB 安藤 和馬	6/12	89	0	1	1
QB 荒木 裕一朗	6/10	47	0	0	6
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
RB 北川 瞬	10	37	0	3.7	10
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
WR 重松 直樹	3	57	0	19.0	21
WR 宜本 潤平	2	38	0	19.0	26
選手名	タックル数	サック数	ファンブル	インターベント	パスカット
LB 鵜沼 康平	7.0	0.0	0	0	0

LB 浮山 航	6.0	0.0	0	0	0
LB 猪野 祥太	4.0	0.0	0	0	0

<ゲームサマリー>

日本代表にとって JWC 初戦となるドイツ戦。ある程度は予想していたドイツの大型 DL 陣だったが、想像以上の高さと激しいプレッシャーを試合開始直後から受けことになった。日本のオフェンスを 3 回で止めたドイツ代表は、続くオフェンスの 2 プレイ目で QB#5 ジェンス・クリエテから WR#87 ラーズ・サムジェスクへのパスが決まり先制の TD を奪われてしまう。その後、日本のオフェンスは、ドイツの大型 DL に対しサイズとパワーで圧倒され、なかなかボールを前に進めることができないまま、前半を 0 対 7 とリードされて折り返す。

後半に入ると、前半に止めることができなかったドイツのランオフェンスに対し、日本のディフェンスが見事に対応していく。また、後半から QB を#19 の安藤に変えると、その安藤から WR#3 重松を中心にパスが決まり出しオフェンスが徐々にリズムをつかみ始める。すると、ついに後半 2 回目のオフェンスシリーズで日本代表の今大会初得点が生まれる。QB 安藤から WR#21 宜本、#24 和田にパスを決め、ドイツ陣深くまで攻め込むと、最後はキッカーの遠藤が 32 ヤードの FG を決め、3 対 7 と追い上げ勢いに乗る。

その後も日本のディフェンスはドイツのオフェンスを完璧に止め、流れは一気に日本へと傾く。その流れに乗り攻め込む日本は、ドイツ陣に入ったところで起死回生のスペシャルプレイを選択。WR 宜本からリバースプレイの形でボールを受けた QB#4 畑がそこから奥へと走りこむ宜本へパスを投げる。ドイツディフェンスはボールを受けた畠の動きにつけられ、フリーになっていた宜本は確実のそのボールをキャッチ。26 ヤードのゲインでゴール前 8 ヤードまで攻め込む。次のプレイで QB 安藤が自らのランで 10 対 7 となる逆転の TD を決めた。

第 4Q、8 分 35 秒を残した時点で逆転を決めた日本は、そこから再逆転を狙うドイツの怒涛のパスオフェンスを DB 陣中心に必死に守り切り、最後は DB#16 砂川がインターセプトを決め、ディフェンス、オフェンスの両方の力でドイツとの激闘を制した。

山㟢 隆夫 U-19 日本代表監督は、試合後の会見で、「ドイツ選手との体格の差や、パワーの違いなどは予想していたが、あそこでスピードがあるとは思わなかった。ただ、左右へのプレイを多くすることで、リズムをつかむことができた。逆転を決めたスペシャルプレイは、昨年の高校選手権の決勝（クリスマスボウル）、自分がヘッドコーチを務める大阪産業大学付属高校で使ったプレイと同じもの。今日の試合のような展開になった時に使おうと思っていた。」と、勝利の喜びを語った。

■ トーナメント 1 回戦 4 試合 全試合結果

現地時間 6月 27 日 (土) 10 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 ニュージーランド代表	0	0	0	0		0
U-19 カナダ代表	20	21	7	7		55

現地時間 6月 27 日 (土) 13 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 ドイツ代表	7	0	0	0		7
U-19 日本代表	0	0	3	7		10

現地時間 6月27日（土）16時00分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 スウェーデン代表	ヨーロッパ大陸連盟	0	0	0	0		0
U-19 メキシコ代表	アメリカ大陸連盟	7	13	7	14		41

現地時間 6月27日（土）20時00分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 フランス代表	ヨーロッパ大陸連盟	0	0	0	0		0
U-19 アメリカ代表	開催国	24	13	13	28		78

■ 試合前のコメント

●山㟢 隆夫 U-19 日本代表 監督（大阪産業大学附属高校）

「前回のドイツ戦はこのチームになってから初めての試合だったため、動きの硬さやミスが目立ったが、カナダ戦は2試合目ということもあり、ミスを徹底的に無くしていきたい。カナダはサイズもスピードもあり、且つフトボールの質も高いが、1プレイ1プレイを大事に、ディフェンスは1シリーズを確実に止めること、オフェンスはファーストダウンを更新することを実行していく。試合のポイントは、ドイツ戦と変わらないが、ライン戦になるとを考えている。DLは、いかに相手のQBにプレッシャーをかけられるか。OLは、自分たちQBをどれだけ守れるかが鍵になると思う。こちらでは多くの予想がカナダ圧勝となっているが、それを引っくり返すのが楽しみだ。」

●須永 恭通 U-19 日本代表 オフェンス・コーディネーター（日本大学）

「ドイツ戦の評価は30点。試合後半にはリズムを取り戻し勝利することができたが、途中までは自分たちのプレイがほとんどできず、全体が噛み合っていなかった。明日のカナダに対しても、サイズとパワーで圧倒されることが予想されるが、技術とスタミナで勝負をしていきたいと考えている。最後はパスで勝負をかけることになると思うが、オフェンスで試合をコントロールし確実に得点に結びつけていきたい。日本のキープレイヤーとしては、ドイツ戦で初戦のプレッシャーからか精彩を欠いたQB荒木がエースとして次の試合では必ずやってくれると信じている。」

●武田 真一 U-19 日本代表 ディフェンス・コーディネーター（大阪産業大学附属高校）

「明日のカナダ戦のポイントはランストップだと考えている。ドイツ戦でもそうだったが、相手のランオフェンスが出ると苦しい展開になってしまふので、選手たちには大きい相手選手に対しても迷わず思い切ってプレイしていくと言っている。また、DB砂川や中村には、ミスを恐れずに積極的にインターベントを狙っていってほしい。日本は、練習量、チーム全体のまとまりという点ではカナダに対し勝っていると思うので、全員の力でタックルし、カナダのオフェンスを確実に止めていきたい。0点に抑えると言いたいところだが、個人的な感覚では17点に抑えることができれば、勝機があると思っている。」

●北川 瞬 U-19 日本代表 キャプテン（立命館大学2年RB）

「前回のドイツ戦では、オフェンスに課題が多く残ったが、実力的にドイツに劣っているという印象はありませんでした。試合後のミーティングで修正した課題や反省を生かしたいです。そして誰よりも強い気持ちを持って最後の一秒まで勝つという気持ちを強く持って勝利をつかみ、決勝に進みます！」

■ 準決勝 vs カナダ代表 試合結果

現地時間 7月1日（水）15時55分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 日本代表	アジア大陸連盟	7	7	7	14		35
U-19 カナダ代表	アメリカ大陸連盟	7	14	7	10		38

@ ファウセット・スタジアム（米国オハイオ州キャン頓）

観衆： 2,130名

得点経過

1Q		
日本	TD	08:11 QB 荒木 裕一朗→TE 平山 謙一 3ヤード TD パス (キック成功)
カナダ	TD	03:11 QB J.ドヨン-ロッシュ→WR G.G.ボレアサ 7ヤード TD パス (キック成功)
2Q		
日本	TD	09:46 RB 井上 周 17ヤード TD ラン (キック成功)
カナダ	TD	06:40 QB J.ドヨン-ロッシュ→RB S.ラブバーラ 10ヤード TD パス (キック成功)
カナダ	TD	00:26 QB B.ブリッジ 11ヤード TD ラン (キック成功)
3Q		
カナダ	TD	08:59 RB S.ラブバーラ 11ヤード TD ラン (キック成功)
日本	TD	02:24 QB 荒木 裕一朗→WR 宜本 潤平 34ヤード TD パス (キック成功)
4Q		
カナダ	FG	10:50 K L.ハジュルラフー 42ヤード FG
日本	TD	06:25 QB 荒木 裕一朗→WR 遠藤 昇馬 38ヤード TD パス (キック成功)
日本	TD	01:27 QB 荒木 裕一朗→WR 宜本 潤平 33ヤード TD パス (キック成功)
カナダ	TD	00:16 QB J.ドヨン-ロッシュ→WR A.アンソニー 33ヤード TD パス (キック成功)

U-19 日本代表	チーム成績	U-19 カナダ代表
376	オフェンス総獲得ヤード数	461
319	パス総獲得ヤード数	287
57	ラン総獲得ヤード数	174
17	ファーストダウン回数	20
19:01	ボール支配時間	28:59

U-19 日本代表 主な個人成績					
選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターベント	被サック
QB 荒木 裕一朗	22／32	285	4	0	2
QB 畑 卓志郎	1／1	34	0	0	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
RB 井上 周	5	58	1	11.6	21
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
WR 宜本 潤平	8	137	2	17.1	34
WR 遠藤 昇馬	3	98	1	32.7	38
WR 重松 直樹	5	40	0	8.0	16
RB 北川 瞬	4	15	0	3.8	7
選手名	タックル数	サック数	ファンブル	インターベント	パスカット
DB 栄植 元希	9.5	0.0	0	0	0
LB 猪野 祥太	7.5	0.0	0	0	0
LB 浮山 航	5.5	0.0	0	0	0

<ゲームサマリー>

カナダのキックオフで試合開始。日本は、先発の QB 荒木が丁寧にパスをつなぎ相手陣 39 ヤードに攻め込むと、この試合に向けて準備をしていたスペシャルプレイを選択。QB 荒木からピッチを受けた QB 畑のフェイクから、WR 宜本へパスというプレイで、見事に 34 ヤードのパスが決まりゴール前 5 ヤードまで前進。最後は、TE 平山への TD パスで日本が先制点を上げる。しかし、カナダも、QB ジェレミー・ドヨン-ロッシュから、WR ジュリアン・ベイリーへの 21 ヤードパスなどで前進。最後は RB ジウェイアム・ボレアサへの TD パスで同点に追いつく。

続く日本のディフェンスでは DB 栄田がパントをブロックするビックプレイを決める。ゴール前 17 ヤードという絶好のポジションから RB 井上が TD ランを決め 14 対 7 とリードを奪う。追加点をあげ、流れを引き寄せたい日本だったが、カナダもすぐに RB ボレアサの TD ランで追いつき、さらに前半終了間際には、QB ブランドン・ブリッジガランで TD を決め 14 対 21 とカナダリードで前半を終える。

前半から両チームによる点の取り合いになったが、後半に入るとその様相はより激しさを増す。後半最初のオフェンスでカナダは点差を 14 点に広げるが、日本も WR 宜本がエンドゾーン内で相手 DB と競り合いながら最後までボールへの集中力を切らさず TD パスをキャッチするスーパークリーを決め 21 対 28 の 7 点差とする。第 4Q 早々にはカナダが FG を決め、再び 10 点差に広げるものの、日本も QB 荒木から WR 遠藤へ 38 ヤードの TD パスを決め 3 点差に追い上げる。

前半は、カナダのランオフェンスに苦しんだ日本のディフェンス陣だが、試合後半に入ても豊富な運動量で相手 QB にプレッシャーをかけ続け、徐々にカナダオフェンスからリズムを奪っていく。

3 点差のまま迎えた試合時間残り 2 分 48 秒、自陣 15 ヤードからの日本のオフェンスは残り時間との戦いになったが、QB 荒木がプレッシャーのかかる中、落ち着いてパスオフェンスを展開。WR 宜本を中心にパスを投げ分け、相手に目的を絞

らせないプレイでカナダ陣まで攻め込む。最後はゴール前 33 ヤードから左のサイドライン際を駆け上がる宜本へのパスが見事に決まり、試合時間残り 1 分 27 秒で 35 対 31 と逆転に成功する。

続く自陣 36 ヤードから始まった、カナダのオフェンスは、WR ベイリーらへのパスを連続で成功させ日本陣内へと攻め込んでくるが、日本ディフェンス陣も、タックルを決め必死に守る。しかし、残り時間 26 秒、ゴール前 33 ヤード。QB ドヨンーロッシュからのパスを WR アレックス・アンソニーがパスを受けタックルを受けながらも、そのまま走り切り TD を決めた。試合残り 16 秒で 35 対 38 とカナダが再逆転。残り時間 10 秒から日本のオフェンスになるが、そのまま試合終了となつた。

■ 試合後のコメント

●山寄 隆夫 U-19 日本代表 監督（大阪産業大学附属高校）

「カナダに対しては、ラン・パスをうまく組み合わせ、相手に的を絞らせないことを考えてオフェンスを展開した。試合は得点の取り合いになったが、ハーフタイムには選手たちには点差を気にせず、取られたら取り返す。自分たちのプレイに集中しろと伝えた。最後の TD を決めたシリーズは、残り時間を見てオフェンスをする余裕は無かった。」

●荒木 裕一朗 U-19 日本代表 QB（立命館大学 1 年）

「負けてしまいとても悔しいです。しかし、今日は試合を楽しむことが出来、良い勝負が出来たと思います。前回のドイツ戦の時は相手の選手とのサイズの違いに焦ってしまったのですが、今日は程よい緊張感を持って試合に取り組みました。前回の試合の反省から空いているレシーバーを見極め、パスを投げることができました。それに加え、リズム良く攻撃が出来たと思います。次の試合は 3 位決定戦ということで、今回のようにリズム良い攻撃で勝利を収めたいです。」

●宜本 潤平 U-19 日本代表 WR（立命館大学 1 年）

「試合中は“自分に飛んできたパスは全て取る。TD レシーブを決める。”という気持ちで戦っていました。最後の TD パスを決めた瞬間は勝ったと思いましたが、ベンチに戻ってからはすぐに次のオフェンスへと気持ちを切り替えていました。試合結果に対して、今は本当に悔しいです。」

■ 第 1 回 JWC 大会第 2 日目（準決勝）結果

現地時間 7 月 1 日（水）15 時 55 分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 日本代表	アジア大陸連盟	7	7	7	14		35
U-19 カナダ代表	アメリカ大陸連盟	7	14	7	10		38

観衆： 2,130 名

現地時間 7 月 1 日（水）18 時 58 分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 メキシコ代表	アメリカ大陸連盟	0	0	0	0		0
U-19 アメリカ代表	開催国	27	14	7	7		55

観衆： 9,000 名

■ 順位決定戦トーナメント 結果

現地時間 7月1日（水）10時02分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 ニュージーランド代表	オセアニア大陸連盟	0	0	0	7		7
U-19 ドイツ代表	ヨーロッパ大陸連盟	14	9	22	7		52

観衆： 1,000名

現地時間 7月1日（水）12時57分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 フランス代表	ヨーロッパ大陸連盟	6	0	0	8		14
U-19 スウェーデン代表	ヨーロッパ大陸連盟	0	17	7	0		24

観衆： 1,500名

■ メキシコ戦前日のコメント

●山寄 隆夫 U-19 日本代表 監督（大阪産業大学附属高校）

今年の3月にこのチームが発足してから QB と WR の連携が一番成長してきたと思う。今回の大会ではドイツ、カナダと2試合を戦ってきたが、WR陣が落球したのは1度だけ。明日の試合でも非常に高いレベルでのプレイを期待している。明日のメキシコ戦はこの日本代表チームで戦う最後の試合になるが、今までと同じように日本らしいアメリカンフットボールをして、いい形で今大会を締めくくりたい。

●古橋 由一郎 U-19 日本代表 ヘッドコーチ（立命館大学）

明日対戦するメキシコは、過去のU-19の世界大会を含めいろいろと因縁のあるチームだ。戦術的に質の高いフットボールをしており、非常に洗練された戦い方をしている。また、その戦術は日本に似ていることもあり、やりにくい相手だと思う。

試合は最後までもつれると予想しているが、日本チームとしてやれることをすべて出し切り、最後まで気持ちを切らさず、悔いの残らないよう勝って日本に帰りたい。

●北川 瞬 U-19 日本代表 キャプテン（立命館大学2年 RB）

今年3月に川崎で行われたGCBや関西での合同合宿などを経て、チームとしての絆は強くなりました。このチームが、大会終了とともに解散してしまうことは寂しいですが、明日行われる最後の試合ではチームの持っているものを全てぶつけ勝利したいと思っています。ドイツ、カナダの2試合でやってきたこと、そして、できなかつたことをもう一度見直し、明日のメキシコ戦に挑みたいと思います。

メキシコはこれまで対戦してきたドイツやカナダとは違い、サイズやプレイスタイルが似ているため、明日の試合はとても難しいものとなることが考えられます。しかし、ドイツ戦ではオフェンスが、カナダ戦ではディフェンスが課題を残してしまったので、それぞれの課題をしっかり消化できれば勝因はあると思います。

今、RBにケガ人が多くあまりランプレイが選択されることが多いのですが、コールされたときはその1プレイを大切にていきたいです。また、キャプテンとして自分自身のランで他の選手たちを奮い立たせたいです。最後には“こいつをキャプテンにしてよかった。”と皆に言ってもらえるよう、頑張ります。

このチームでの最後の試合なので、本当に1点差であったとしても勝利し、笑顔でこのチームの終わりを迎えるたいです。

■ 3位決定戦 vs メキシコ代表 試合結果

現地時間 7月4日（土）19時07分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 日本代表	アジア大陸連盟	21	7	14	0		42
U-19 メキシコ代表	アメリカ大陸連盟	7	6	0	14		27

@ ファウセット・スタジアム（米国オハイオ州キャン頓）

観衆： 3,000名

得点経過

1Q

日本	TD	11:18 QB 荒木 裕一朗→WR 遠藤 昇馬 44ヤード TD パス（キック成功）
日本	TD	08:50 QB 荒木 裕一朗→WR 宜本 潤平 5ヤード TD パス（キック成功）
メキシコ	TD	03:09 QB R.イサイアス・ベガ→WR J.ロザーノ 64ヤード TD パス（キック成功）
日本	TD	00:10 QB 荒木 裕一朗→WR 宜本 潤平 53ヤード TD パス（キック成功）

2Q

メキシコ	TD	02:49 QB R.イサイアス・ベガ 2ヤード TD ラン（キック失敗）
日本	TD	00:14 QB 荒木 裕一朗→WR 重松 直樹 35ヤード TD パス（キック成功）

3Q

日本	TD	02:20 QB 荒木 裕一朗→WR 宜本 潤平 10ヤード TD パス（キック成功）
日本	TD	00:07 LB 辻本 洋平 0ヤード・ファンブル・リカバーTD（キック成功）

4Q

メキシコ	TD	11:02 QB R.イサイアス・ベガ→WR C.レネ・ゴメス 28ヤード TD パス（2点失敗）
メキシコ	TD	07:02 QB R.イサイアス・ベガ→WR J.カルロス・マヤ 25ヤード TD パス（2点成功）

U-19 日本代表 主な個人成績

選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターベプト	被サック
QB 荒木 裕一朗	26／37	354	5	1	0
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
RB 北川 瞬	8	18	0	2.3	8
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
WR 宜本 潤平	9	112	3	12.4	53
WR 遠藤 昇馬	4	75	1	18.8	44
WR 大澤 健太	3	75	0	25.0	46
WR 重松 直樹	3	48	1	16.0	35

WR 林 雄太	3	24	0	8.0	15
WR 小山 泰史	3	17	0	5.7	13
RB 北川 瞬	1	3	0	3.0	3
選手名	タックル数	サック数	ファンブル	インターチェプト	パスカット
DB 丸山 雄大	7.5	0.0	0	0	3
DB 中村 正芳	7.0	0.0	0	0	0
DB 砂川 敬三郎	6.5	0.0	0	0	0
DL 長尾 篤	6.5	1.0	2	0	0
LB 辻本 洋平	5.0	0.0	0	0	0
DB 香山 裕俊	4.0	0.0	0	1	3

<ゲームサマリー>

第1回 IFAF ジュニア世界選手権大会の3位決定戦、日本対メキシコの試合はメキシコのキックオフで試合開始。日本は最初のプレイでメキシコ陣へ入ると、その直後 QB 荒木から WR 遠藤への44ヤード TD パスが決まり先制する。試合開始わずか2プレイ、42秒で先制点を決めた日本は、続くメキシコのキックオフリターンをファンブルさせ再びオフェンスの機会を得る。ゴール前22ヤードからの攻撃は、RB 井上が第4ダウンギャンブルで12ヤードランを決めるなどでゴール前3ヤードまで進むと、最後は WR 宮本へのTD パスが決まり14対0とリードを広げる。最初の2シリーズを連續でTDを決め勢いに乗る日本はメキシコにTD パスで7点差に詰められるも、再び QB 荒木から宮本への53ヤードのTD パスで21対7とし第1Qを終える。

第2Qに入ると、メキシコディフェンスのQBへのプレッシャーが激しくなり日本が得点をできないまま、逆にメキシコに追加点を許してしまう。21対13となり試合の流れがメキシコに傾きかけたが、前半終了間際にターンオーバーからのオフェンスで WR 重松へのTD パスが決まり28対13で前半を終える。

前半でリードを広げた日本は後半に入ってもその勢いは止まらず、第3Qでは WR 宮本がこの試合3本目となるTD パスと、LB 辻本によるファンブルリカバーTD などで42対13としメキシコから29点のリードを奪う。しかし第4Qに入ると、後半に入ってからメキシコの得点を0点に抑えてきた日本ディフェンス陣に疲れの色が見えはじめ、メキシコのオフェンスをなかなか食い止めることができず、メキシコに2シリーズ連續でTDを決められ42対27となる。試合時間残り5分43秒。メキシコはパスを中心としたオフェンスでゴール前3ヤードまで攻め込むも、最後は DB 香山が値千金のインターチェプトを決め日本がメキシコの追い上げを食い止め、42対27で勝利を納めた。

■ メキシコ戦後のコメント

●山崎 隆夫 U-19 日本代表 監督（大阪産業大学附属高校）

今回の試合は序盤、楽に勝てそうな展開でしたが、やはり世界大会だけあって、簡単に勝たせてはくれず、後半は本当に冷や冷やしました。今回の大会全体を通して、選手たちは日本では戦ったことの無いサイズやスピードを持つ選手と対戦することで、世界というものを肌で経験できたと思います。それに加え、JWC 参加各国とアメリカンフットボールを通して交流を深めることができ、人間的にも大きく成長してくれたと思います。今回メキシコに勝利したことを世界への第一歩として捉え、5年後10年後のJWCでカナダやアメリカを倒すことを目標としたいです。

●北川 瞬 U-19 日本代表 キャプテン（立命館大学 2 年 RB）

メキシコは予想していた通り強かったです。ドイツやカナダの選手に比べると体格差はありませんでしたが、パワーがありディフェンスのタックルは激しく、オフェンスは一発を決める力を持っていて手強い相手でした。そのメキシコに対して今日の試合では本当にいいオフェンスができたと思います。試合中は苦しい場面もありましたが、最後は勝利することが出来て本当に嬉しいです。この大会を通じて海外の選手と対戦したことは、自分にとって本当にいい経験になりました。フィジカル、メンタルともに世界の選手と比べるとまだだと感じましたが、スピードや細かい技術については日本人でも勝負できると感じることができました。日本代表として集まった今回のメンバーは、日本に帰ればお互いがライバルチームの選手として対戦することになりますが、そんな選手たちと一緒に世界を相手に戦えた経験は貴重なもので、本当に楽しかったです。改めてアメリカンフットボールが楽しくなりました。

●荒木 裕一朗 U-19 日本代表 QB（立命館大学 1 年）

高校の時、あまりパスは投げなかったので、今大会はパスプレイが多くとても楽しかったです。今日の試合では、相手の挑発やリズムに飲み込まれず集中を切らさなかったことと、パスが良く通ったことが勝因だと思います。この大会で世界の強豪国カナダを後一步のところまで追い詰めることができたことを胸に、日本のチームに帰ったら日本人選手を相手に怖気づくことなく自信を持ってプレイし、世界を見据えて頑張っていきたいです。

■ 第 1 回 JWC 大会第 3 日目 結果

7-8 位決定戦

現地時間 7月 4日（土）13 時 00 分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 ニュージーランド代表	オセアニア大陸連盟	0	0	0	6		6
U-19 フランス代表	ヨーロッパ大陸連盟	7	14	7	6		34

観衆： 1,000 名

5-6 位決定戦

現地時間 7月 4日（土）15 時 59 分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 スウェーデン代表	ヨーロッパ大陸連盟	0	0	0	0		0
U-19 ドイツ代表	ヨーロッパ大陸連盟	7	0	0	7		14

観衆： 1,200 名

3-4 位決定戦

現地時間 7月 4日（土）19 時 07 分キックオフ		1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 日本代表	アジア大陸連盟	21	7	14	0		42
U-19 メキシコ代表	アメリカ大陸連盟	7	6	0	14		27

観衆： 3,000 名

優勝決定戦

現地時間 7月4日（土）19時07分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TB	TOTAL
U-19 アメリカ代表	開催国	15	3	14	0	41
U-19 カナダ代表	アメリカ大陸連盟	3	0	0	0	3

@ ファウセット・スタジアム（米国オハイオ州キャン頓）

観衆： 15,473名

『第1回 IFAF ジュニア世界選手権大会 2009 (JWC : Junior World Championship、於：米国オハイオ州キャン頓) の大会最終日となる第4日目が行われ、地元アメリカと準決勝で日本を破ったカナダとの決勝戦、1試合が開催された。

試合は、地元アメリカがアメリカンフットボールの母国としての強さを見せつけ終始カナダを圧倒。オフェンスでは大会MVPを受賞したRB デイビット・ウィルソンの活躍などでコンスタントに得点を重ね 41点を奪い、さらに、ディフェンスでもカナダをFG1本に封じ込めるなど、攻守にわたってカナダに付け入る隙を与えることなく、41対3で圧勝し、初代 JWC チャンピオンの座に輝いた。

この結果、**第1回 IFAF ジュニア世界選手権大会・最終順位**は、1位：アメリカ、2位：カナダ、**3位：日本**、4位：メキシコ、5位：ドイツ、6位：スウェーデン、7位：フランス、8位：ニュージーランドとなりました。日本代表は、アメリカ大陸3強の一員であるメキシコを退け、世界3位の座を勝ち取り、表彰式では地元の名産、ベルデン・ブリックス社の煉瓦で作られた銅メダルを受賞した。

また、閉会式の後に設けられたレセプションでは今大会の各賞の発表が行われ、個人賞では、まず大会ベスト11にあたる『オール JWC ファーストチーム』に、オフェンス部門で QB 荒木 裕一朗（立命館大学1年）、WR 宜本 潤平（立命館大学1年）の2選手が選ばれ、また、大会ベスト11の次点となる『オール JWC セカンドチーム』にも、ディフェンス部門で DL 藤井 快昌（立命館大学1年）、DB 丸山 雄大（日本大学2年）、オフェンス部門で WR 遠藤 昇馬（日本大学1年）、OL 伊藤 寛（立命館大学2年）の4選手が選ばれました。さらに、日本代表の今大会での快進撃が高く評価され、チームとして『フェアプレイ・チーム賞』、また、山崎 隆夫監督（大阪産業大学附属高校）も『最優秀ヘッドコーチ賞』を受賞する快挙を成し遂げた。

尚、『オール JWC ファーストチーム』に選ばれた QB 荒木は3試合で計79回中54回パス成功（成功率68.3%）、686ヤード、9TD獲得、1INT、また、WR 宜本は計19回レシーブ、287ヤード、5TDを記録した。

■ 大会最終日を終えた主な U-19 日本代表コーチ、選手のコメント

●山崎 隆夫 U-19 日本代表 監督（大阪産業大学附属高校）

この大会の最後に最優秀ヘッドコーチ賞という特別な賞に選ばれたことについては、最初はビックリしましたが、今は本当に嬉しく思っています。もしかすると高校の日本一決定戦であるクリスマスボウルで優勝した時より嬉しいかもしれません。ヘッドコーチとして私が今回このような賞をいただきましたが、これはすべて今回の日本代表を共に率いてくれたコーチ陣やチームを支えてくれたスタッフ、そして選手たちみんなのお陰です。みんなには本当に感謝しています。

また、日本代表はチームとしても今大会のフェアプレイ・チーム賞に選ばれましたが、これは改めて日本代表の組織力と、

この大会に向けて取り組んできた自分たちのフットボールが評価されたことだと認識しており、非常に光栄に思っています。

●荒木 裕一朗 U-19 日本代表 QB（立命館大学 1 年）

（オール JWC ファーストチームの受賞式の際）次々と選手名が呼ばれていたようでしたが、はじめは何を発表していくなぜ自分の名前が呼ばれたのか、正直ちゃんと理解できていませんでした。ただ、そのあと周りの選手から祝福を受け自分がオール JWC ファーストチームの QB に選ばれたことを実感し、今はとても嬉しい気持ちでいっぱいです。

今回の大会で結果を残すことができ、このような賞に選ばれたことはオフェンスのメンバーやコーチたちのお陰だと思っています。今回の経験を生かし、自分のチームに帰ってからも今の自分に満足することなく、さらに上のレベルを目指して頑張っていきたいです。

●宜本 潤平 U-19 日本代表 WR（立命館大学 1 年 WR）

最初にオール JWC セカンドチームに遠藤の名前が呼ばれた時は、もしかしたらファーストチームでは自分の名前が呼ばれるかも、とほんの少しだけですが期待をしていました。ただ、本当に自分がオールファーストチームに選ばれた時はとても嬉しかったです。

（同じくオール JWC ファーストチームに選ばれた）QB の荒木とは小学生のころから一緒にアメフトをやってきた仲なので、他の選手にはない何か特別な感覚というものがあり、今大会の厳しい戦いの中でもお互いを信じプレイすることができました。その荒木と世界の舞台で結果を残し、二人でオール JWC ファーストチームに選ばれたことは本当に嬉しいです。

これからも荒木とともに世界一のホットラインとしてお互いに刺激しながら頑張っていきたいです。

●北川 瞬 U-19 日本代表 RB キャプテン（立命館大学 2 年）

2 週間の日程ということで、はじめは長いと感じていたのですが、毎日がとても充実していて、日が過ぎていくのが早く感じました。最終的に世界第 3 位という結果を残すことができ、それに加えメキシコに勝ち、カナダとも良い試合が出来、悔しさもありますが全体的には満足しています。この大会を通じて、海外選手のフィジカルや体格、スピード等を直に経験したということが、今大会参加の収穫だと思います。

一方で、日本代表選手のチーム力は高いレベルにあるということも実感できました。しかし、個人の能力に関してはまだまだで、速さや強さの両面からもう一段階上のレベルを目指すことの重要性も実感しました。世界を経験したことを糧に、帰国後もチームの中心となつていけるようこれからも頑張っていきたいです。

●鵜沼 康平 U-19 日本代表 LB 副キャプテン（法政大学 2 年）

今春に行われたグローバルチャレンジボウルの時よりも、良いチームを作つていけたように思います。試合毎に結束力を増し、皆が同じ目標、同じ方向に向かっているように感じられました。

ディフェンスは少し課題を残す試合をしてしまい、オフェンスに大きく助けられました。今大会の 3 位という結果には満足しているが、相手オフェンスに振り回されることもあり、それをしっかり止めたかったです。

これからもっと成長して、チームの中心となれるような選手になっていきたいです。そのためにも、心の部分も強くして、どんな相手にも負けずに立ち向かっていく気持ちを忘れないようにしていきたいです。

■ 大会最終日を終えた主な U-19 日本代表コーチ、選手のコメント

●山寄 隆夫 U-19 日本代表 監督（大阪産業大学附属高校）

この大会の最後に最優秀ヘッドコーチ賞という特別な賞に選ばれたことについては、最初はビックリしましたが、今は本当に嬉しく思っています。もしかすると高校の日本一決定戦であるクリスマスボウルで優勝した時より嬉しいかもしれません。ヘッドコーチとして私が今回このような賞をいただきましたが、これはすべて今回の日本代表と共に率いてくれたコーチ陣やチームを支えてくれたスタッフ、そして選手たちみんなのお陰です。みんなには本当に感謝しています。

また、日本代表はチームとしても今大会のフェアプレイ・チーム賞に選ばれましたが、これは改めて日本代表の組織力と、この大会に向けて取り組んできた自分たちのフットボールが評価されたことだと認識しており、非常に光栄に思っています。

●荒木 裕一朗 U-19 日本代表 QB（立命館大学 1 年）

（オール JWC ファーストチームの受賞式の際）次々と選手名が呼ばれていたようでしたが、はじめは何を発表していくなぜ自分の名前が呼ばれたのか、正直ちゃんと理解できていませんでした。ただ、そのあと周りの選手から祝福を受け自分がオール JWC ファーストチームの QB に選ばれたことを実感し、今はとても嬉しい気持ちでいっぱいです。

今回の大会で結果を残すことができ、このような賞に選ばれたことはオフェンスのメンバーやコーチたちのお陰だと思っています。今回の経験を生かし、自分のチームに帰ってからも今の自分に満足することなく、さらに上のレベルを目指して頑張っていきたいです。

●宜本 潤平 U-19 日本代表 WR（立命館大学 1 年 WR）

最初にオール JWC セカンドチームに遠藤の名前が呼ばれた時は、もしかしたらファーストチームでは自分の名前が呼ばれるかも、とほんの少しだけですが期待をしていました。ただ、本当に自分がオールファーストチームに選ばれた時はとても嬉しかったです。

（同じくオール JWC ファーストチームに選ばれた）QB の荒木とは小学生のころから一緒にアメフトをやってきた仲なので、他の選手にはない何か特別な感覚というものがあり、今大会の厳しい戦いの中でもお互いを信じプレイすることができました。その荒木と世界の舞台で結果を残し、二人でオール JWC ファーストチームに選ばれたことは本当に嬉しいです。これからも荒木とともに世界一のホットラインとしてお互いに刺激しながら頑張っていきたいです。

●北川 瞬 U-19 日本代表 RB キャプテン（立命館大学 2 年）

2 週間の日程ということで、はじめは長いと感じていたのですが、毎日がとても充実していて、日が過ぎていくのが早く感じました。最終的に世界第 3 位という結果を残すことができ、それに加えメキシコに勝ち、カナダとも良い試合が出来、悔しさもありますが全体的には満足しています。この大会を通じて、海外選手のフィジカルや体格、スピード等を直に経験したということが、今大会参加の収穫だと思います。

一方で、日本代表選手のチーム力は高いレベルにあるということも実感できました。しかし、個人の能力に関してはまだまだで、速さや強さの両面からもう一段階上のレベルを目指すことの重要性も実感しました。世界を経験したことを糧に、帰国後もチームの中心となっていけるようこれからも頑張っていきたいです。

●鵜沼 康平 U-19 日本代表 LB 副キャプテン（法政大学 2 年）

今春に行われたグローバルチャレンジボウルの時よりも、良いチームを作つていけたように思います。試合毎に結束力を増し、皆が同じ目標、同じ方向に向かっているように感じられました。

ディフェンスは少し課題を残す試合をしてしまい、オフェンスに大きく助けられました。今大会の3位という結果には満足しているが、相手オフェンスに振り回されることもあり、それをしっかり止めたかったです。

これからもっと成長して、チームの中心となれるような選手になっていきたいです。そのためにも、心の部分も強くして、どんな相手にも負けずに立ち向かっていく気持ちを忘れないようにしていきたいです。

第1回 IFAF ジュニア世界選手権大会 2009 大会概要

大会名称：（日本語表記） IFAF ジュニア世界選手権大会 2009

（英語表記） IFAF Junior World Championship 2009

主 催：国際アメリカンフットボール連盟

（IAAF : International Federation of American Football）

日 程：2009年6月27日（土）～7月5日（日）

会 場：ファウセット・スタジアム（米国オハイオ州キャントン）

出 場 国：8カ国

日本、アメリカ合衆国、カナダ、メキシコ、ドイツ、スウェーデン、フランス、ニュージーランド

選 手 資 格：2009年12月31日現在で満19歳以下であること

チ ム 編 成：各国45名の選手でチームを編成

大 会 形 式：トーナメント形式

※第1回戦で敗れた4チームは、敗戦国同士でトーナメントを行い、5位～8位の順位を決定する

大会日程・組み合わせ（最終結果）

6月27日（土） 1回戦

① 10:00	カナダ	55 対 0	ニュージーランド
② 13:00	日本	10 対 7	ドイツ
③ 16:00	メキシコ	41 対 0	スウェーデン
④ 20:00	アメリカ	78 対 0	フランス

7月1日（水） 順位決定戦トーナメント

⑤ 10:00	ドイツ	52 対 7	ニュージーランド
⑥ 13:00	スウェーデン	24 対 14	フランス

準決勝

⑦ 16:00	カナダ	38 対 35	日本
⑧ 19:00	アメリカ	55 対 0	メキシコ

7月4日（土） 7-8位決定戦

⑨ 13:00	フランス	34 対 6	ニュージーランド
---------	------	--------	----------

5-6位決定戦

⑩ 16:00	ドイツ	14 対 0	スウェーデン
---------	-----	--------	--------

3-4位決定戦

⑪ 19:00	メキシコ	27 対 42	日本
---------	------	---------	-----------

7月5日（日） 決勝戦

⑫ 13:00	アメリカ	41 対 3	カナダ
---------	------	--------	-----